

地理歴史科（歴史総合）学習指導案

埼玉県立熊谷高等学校

教諭 中村 祥吾

1 単元名：「近代化と私たち」（3）国民国家と明治維新

2 単元について

（1）教材観（先生の学習単元〈大単元・中単元〉への観点）

近代化は現代的な諸課題の形成にどのように関連してきたかを考察するにあたり、近代化という語句を多角的に捉える必要がある。近代化には諸相があり、各時代や分野において、どのような意味で捉えることができるのかを明確にして生徒に考えさせることで、大単元に対する問いを表現させる。

19世紀後半の世界において、近代化は植民地獲得や帝国主義に結びつき、安価な原材料の供給地と製品や投資の輸出先市場としての植民地獲得が、国民国家のもとで目指された。また、日本にとっての植民地獲得と帝国主義は、明治政府による東アジアへの進出となって現れた。このような視点から、日清・日露戦争を通じた日本の清・朝鮮への進出という学習内容を通じて脱亜論登場の背景と植民地の重要性について考察させ、日本の近代化にとって朝鮮植民地化が重要であった事実気づかせつつ、国民国家と明治維新について理解することで、「近代化と私たち」についての問いに対する答えを求めさせる。

（2）生徒観（学習状況の実態）

本校生徒全員が四年制大学へ進学を希望しており、学習に対する意欲は高い。複雑な歴史的事象を学ぼうとする意欲も高く、理解したことを整理して表現する力も高い。その一方で、指示がないと動き出せない消極的な生徒もおり、主体的に学ぶ姿勢を育むことが課題である。授業中の生徒雰囲気は比較的明るく、男子校で進学を目指す級友という共通認識が一体感を醸成していると感じられる。生徒間でのペアワークを通じ、他の生徒と協力して学びを進める学習態度を育てることも目標である。

（3）指導観（指導に際しての方法・配慮事項）

まず、福沢諭吉の脱亜論について、文章を読ませ年表を整理させることで、その登場した背景について生徒にペアワークで考えさせ、アジアの植民地化に気づかせる。福沢諭吉は、1881年の時点ではアジア盟主論の立場を時事新報の中で取っているものの、それが1885年には脱亜論へと変化している。資料文を読み、記述内容についてペアワークでまとめさせることでこの変化を気づかせ、その理由として欧米列強によるアジア植民地化進行に気づかせる。アジア植民地化についてはプリント中の年表整理から気づかせ、特に1884年清仏戦争による清敗北とベトナムのフランス植民地化に注目させる。次に、朝鮮問題について説明し、朝鮮国内での親清派と親日派の対立と親日派勢力衰退による日本政府の危機感が、日清戦争へと繋がることに気づかせる。日清戦争講和条約としての下関条約締結と三国干渉、さらに中国分割という流れを説明し理解させることで、ロシアの極東進出に気づかせ、朝鮮と遼東半島を巡る日露対立が日露戦争へ至る過程を理解させる。さらに、韓国併合について理解させることで、欧米諸国によるアジア進出と日本による東アジア進出の帝国主義政策をペアワークで比較させる。そして、この単元で学習した内容をミニマインドマップ形式で表現させ、単元の学習内容に対する理解と定着を図る。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

19世紀における「近代化」とは欧米化を意味し、欧米の帝国主義は世界各地の植民地化と強制的欧米化へと繋がっていた。日本は明治維新以降欧米化を遂げつつあったが、19世紀末以降脱亜論が主流となり、欧米列強の仲間入りを目指し帝国主義政策を強めていく立場へ変化した。この単元では、近代化と帝国主義の関連性について考えさせ、日本のアジア進出について理解させることを目標とする。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> 欧米列強によるアジア植民地化、日清戦争、日露戦争を理解する。 グラフから内容を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年表で国際情勢を把握する。 学んだ内容を文章やマインドマップ形式で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 友人と協力して文章を読み取ることができる。 学びの過程で生じた疑問を表現できる。

4 指導計画

時	指導内容等
1・2	英米仏での革命と国民国家の誕生 「国民としての同質性・共通項は何か。その同質性はいつから発生したと考えられるか。」
3・4	日独伊の国家統一、明治維新と「日本人」 「江戸時代の民衆が、自分自身を『日本人』と認識するようになったのはいつ頃か。」
5	国民国家とナショナリズム 「『ナショナリズム』は、日本語でどのように訳せるか。」
6	列強の植民地獲得競争 「国民国家ではどんな勢力が議会や政治の主導権を握り、彼らは何を求めたのか。」
7	福沢諭吉の主張変化（アジア盟主論から脱亜論へ） 19世紀アジア情勢の年表整理、朝鮮問題、日清戦争
8 本時	三国干渉と中国分割 日露戦争とその後の韓国併合、ミニマインドマップ作成

5 本時の学習

(1) ねらい

- 三国干渉から日露戦争への展開を理解させ、その後の韓国併合を理解させる。
- 日本のアジア進出について帝国主義政策の側面から考えさせ、朝鮮植民地化の意義をまとめさせる。
- これまで学習したことをミニマインドマップとして表現させ、学びの中で発見した新たな疑問を文章で表現させる。

(2) 展開

時間	生徒の活動	教師の指導・支援等	資料等
5分	前時の復習	発問 アジア植民地化、朝鮮問題、日清戦争を振り返る。	プリント No13 参照
5分	本時の板書（黒板左端）	プリント No14 空欄に記入	プリント No14
15分 授業内容説明	資料集 P245 地図を参照し、遼東半島を勢力下に置いた国を見つける。 帝国主義政策にとっての植民地の意義を考える。	<ul style="list-style-type: none"> • 三国干渉以後、遼東半島を勢力下においたロシアに着目させる。 • 日英同盟協約と英国が同盟した背景について言及する。 • ポーツマス条約について説明、米国の仲介、日本の朝鮮支配確立について理解させる。 • No14 後半の資料について着目させて考えさせる。 	資料集利用
20分 単元のまとめ	「日本史授業評価表」に、No13、No14 で学んだ内容をミニマインドマップの形式で表現する。	<ul style="list-style-type: none"> • 評価項目を伝達する。 →要素の個数、色分け、表現の工夫(矢印)など • 学びの過程で発見した新たな疑問や気になった点を表現させる。 • 過去の模範例を提示し、書き方の参考にさせる。 	日本史授業 評価表配布
5分	本時のまとめ、次回の予定		模範例配布

6 板書例と使用資料

(1) 板書予定（黒板三分法）

No14 空欄語句 1 _____ 6 _____ 2 _____ 7 _____ 3 _____ 8 _____ 4 _____ 9 _____ 5 _____ 10 _____	地図板書（東アジア） 	要点板書 ミニマインドマップ作成方法 ・評価項目 ・授業で気づいた新発見や新たな疑問点
---	---	--

(2) 資料集：『新詳日本史』浜島書店

時数	本時の課題	問い	S
近代化は現代的な諸課題の形成にどのように関わってきたのか。			
近代化は人間を幸せにしたのか、人間を不幸せにしたのか。			
1	「近代化」の諸相と生活の変化	歴史から見える「近代化」は、人間の幸せと不幸せ、どちらにつながったのか。	
日本の開国には、近代化のどのような側面を見つけていることができるか。			
2	ヨーロッパ諸国のアジア進出	欧米から見た18世紀のアジアは、どのような魅力を持っていたのか。	
3	急速に近づく地球の裏側と世界市場の形成	なぜ時間距離は18世紀に急速に縮まったのか。	
4		安全で速く移動できることを、資本家はどのようなチャンスとしてとらえたのか。	
5	江戸幕府の開国	アメリカと江戸幕府にとって、「開国」はどのようなメリットやデメリットがあるか。	
6			
近代化によって形成された国民や国民国家のもとで、植民地が形成されたのはなぜか。			
7	英米仏での革命と国民国家の誕生	国民としての同質性・共通項は何か。その同質性はいつから発生したと考えられるか。	
8			
9	日独伊の国家統一、明治維新と「日本人」	江戸時代の民衆が、自分自身を「日本人」と認識するようになったのはいつ頃か。	
10			
11	国民国家とナショナリズム、列強の植民地獲得競争	「ナショナリズム」は、日本語でどのように訳せるか。国民国家ではどんな勢力が議会や政治の主導権を握り、彼らは何を求めたのか。	
12			
13	アジア地域の植民地化と日清戦争、日露戦争	福沢諭吉「脱亜論」（1885年）は何を背景として登場したのか。	
14		帝国主義政策によって植民地とはどのように重要か。日本の帝国主義によって朝鮮はどのように重要だったのか。	
近代化によって幸せになった側面、不幸せになった側面があるとすればそれはどのような点か。			
15	「自由」のもとで科学技術の発展がもたらす格差社会		

学習指導要領項目

B 近代化と私たち

(1) 近代化への問い

(2) 結びつく世界と日本の開国

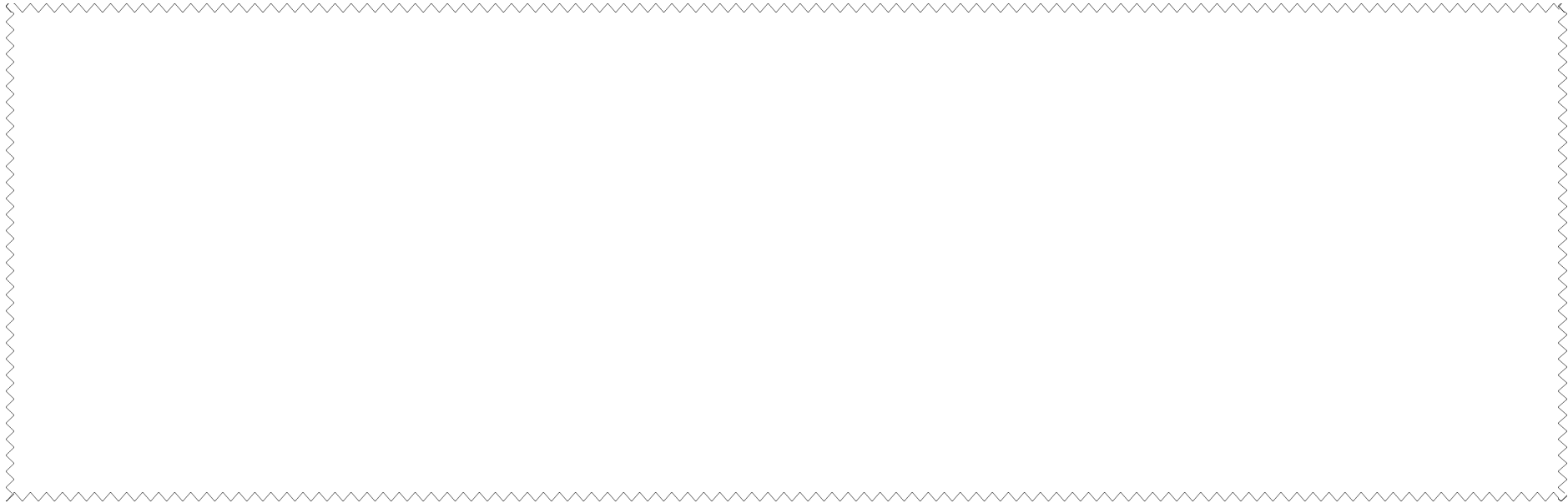
(3) 国民国家と明治維新

(4) 近代化と現代的な諸課題

日本史授業評価表

____年 ____組 ____番 氏名 _____

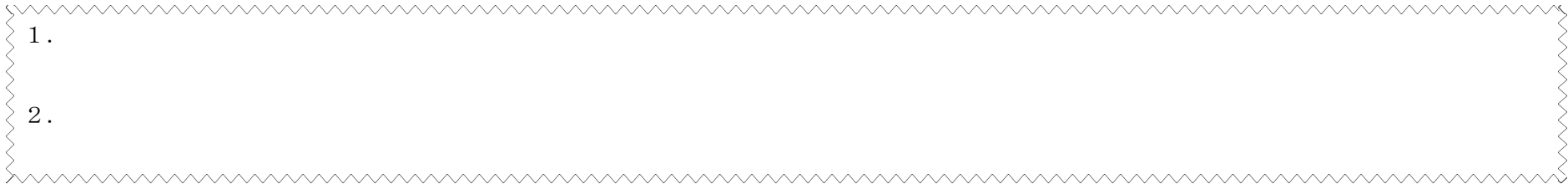
1. あなたが今回の授業 (No ~No) で学んだ知識や内容をマインドマップ形式 (ミニマインドマップ) で表現すること。



2. あなたが今回の授業 (No ~No) の途中や過程で発見した、新しい疑問点や気になったことを以下に書くこと。気になった理由も書くこと。

1.

2.



評価基準 :

マインドマップの要素个数・・・A : 25 個以上、B : 15 個～24 個、C : 15 個以下

マインドマップの各要素をつなげる表現が工夫されているか。・・・線の太さや色、矢印など

発展的学習へとつながる自分自身の新しい疑問を適切に表現できているか。

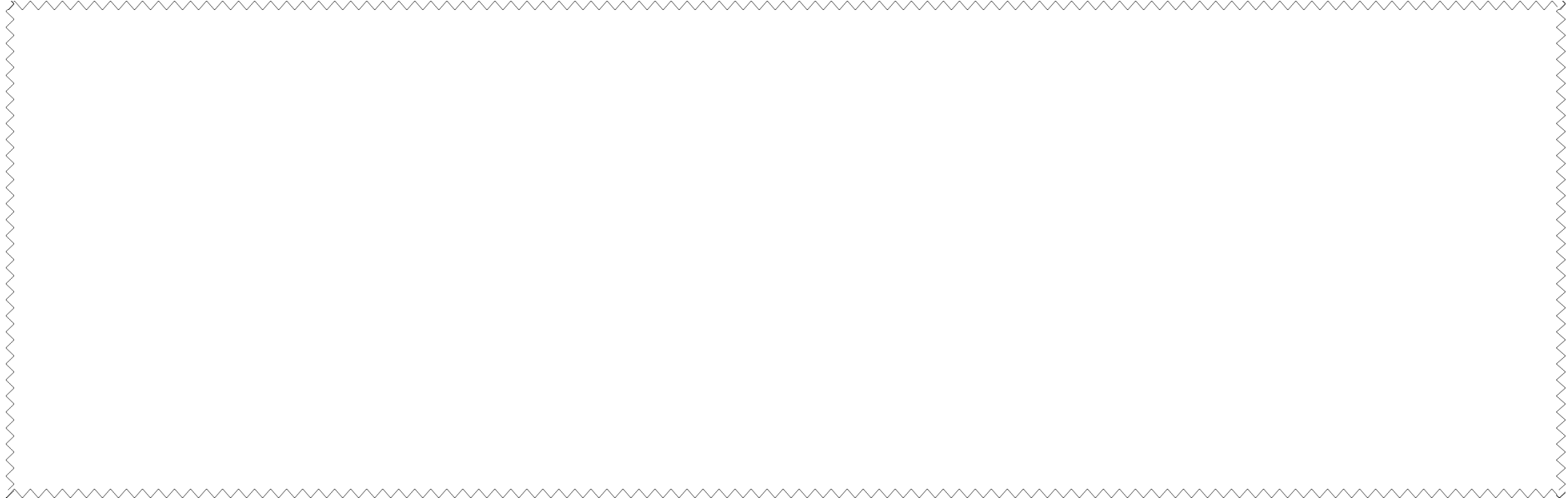
____年 ____月 ____日

日本史授業評価表

____年 ____組 ____番 氏名 _____

例)

1. あなたが今回の授業 (No ~No) で学んだ知識や内容をマインドマップ形式 (ミニマインドマップ) で表現すること。



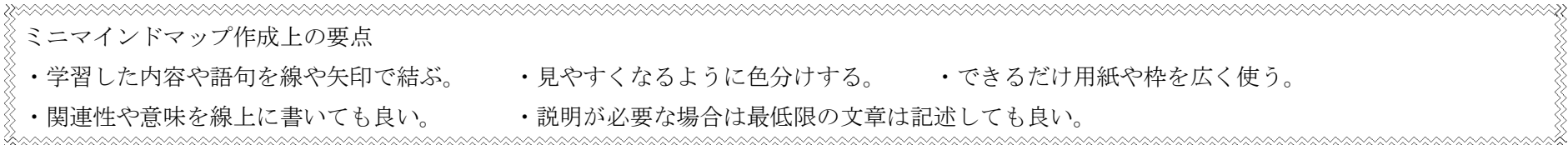
2. あなたが今回の授業 (No ~No) の途中や過程で発見した、新しい疑問点や気になったことを以下に書くこと。気になった理由も書くこと。

- 1.
- 2.



ミニマインドマップ作成上の要点

- ・学習した内容や語句を線や矢印で結ぶ。
- ・見やすくなるように色分けする。
- ・できるだけ用紙や枠を広く使う。
- ・関連性や意味を線上に書いても良い。
- ・説明が必要な場合は最低限の文章は記述しても良い。



____年 ____月 ____日

<アジア地域の植民地化と日清戦争、日露戦争>

Q. 福沢諭吉が1885年3月16日に発表した「脱亜論」は、何を背景として登場したか。
二点見つけてみよう。

福沢諭吉は朝鮮独立党の指導者金玉均と1882年に会いその後も多くの留学生を受け入れている。



福沢諭吉 1881年
朝鮮の改革を日本が支援し、アジア盟主となって日清連携のもと欧米のアジア侵略に対抗する。**アジア諸国の連携**

なぜ変化？



福沢諭吉 1885年「脱亜論」
朝鮮、清の開明を待って連帯を強める余裕はない。日本も欧米列強同様に東アジア分割に加わることが正しい。

「脱亜論」
我日本の国土は
亜細亜の東辺に在
り、雖ども、其国民
の精神は既に亜細
亜の固陋を脱して
西洋の文明に移り
たり。……左れば今
日の謀を為すに、我
国は隣国の開明を
待て共に亜細亜を
興すの猶豫ある可
らず。寧ろ其伍を脱
して西洋の文明国
と進退を共にし、其
の支那朝鮮に接す
るの法も隣国なる
が故にとて特別の
会積に及ばず、正に
西洋人が之に接す
るの風に従て処分
す可きのみ。悪友を
親しむ者は共に悪
名を免かる可らず。
我れは心に於て亜
細亜東方の悪友を
謝絶するものなり。

「脱亜論」にはどのような内容が書かれているか。(太線部に注目してペアワークする。)

- ・日本人の精神はすでにアジアの見識を越えて西洋文明と同じである。
- ・隣国(支那・朝鮮)の開明を待ってアジアを強くする余裕はすでになく、日本は西洋と同じ行動にするべきである。
- ・支那・朝鮮との交際は断るべきである。

<19世紀後半頃のアジア情勢>

中国	その他アジア地域
1840(アヘン戦争)(英×清、清敗北、南京条約)	
1856(アロー戦争)(英×清、清敗北、天津条約)	1858 ムガル帝国滅亡(印)
1884(清仏戦争)(仏×清、清敗北)	1877 インド帝国成立(英領インド)
	1885 仏が越を保護国化(清の撤退)
	1887 仏領インドシナ連邦成立
	1890 露がシベリア鉄道敷設
	1895 英領マレー成立
	1899 比が西領→米領

※これ以外にも19世紀前半にはすでに、

- ・蘭がインドネシア支配を拡大
- ・英の海峡植民地(マラッカ・シンガポールなど)成立

「脱亜論」が発表された時期は、上の年表ではどの出来事と近いかな？

清仏戦争で清が敗北し、越が仏の保護国化された時期。

その頃、福沢諭吉にはどのような危機意識があったと思われるかな？

列強によるアジア植民地化が進んでおり、日本も危機にある。

<朝鮮問題>

日本が朝鮮への進出を始めると、朝鮮国内で親日派と親清派の対立が目立つようになっていった。

1) 朝鮮内部での親日派 VS 親清派争い

明治政府は 1875 年江華島事件をきっかけに、翌年日朝修好条規を締結し朝鮮を開国させた。

・ 1882(明治 15)年 7 月 (壬午軍乱)

…親日派政権(閔妃ら)に対し、守旧派兵士と大院君が起こしたクーデタ。清軍鎮圧で失敗。以後、閔妃らは親清派へ変化。

・ 1884(明治 17)年 (甲申事変)

…親日派独立党(金玉均ら)が日本と結び政権側事大党(閔妃ら)の打倒を目指したクーデタ。清の干渉で失敗

⇒ともに清によって鎮圧(親日勢力は後退)。また悪化した日清関係を打開するため、

1885(明治 18)年 4 月、日本と清国は (天津条約) を締結した。

(天津条約) の内容 …

- ①日清両国の朝鮮からの撤兵
- ②次回、朝鮮への出兵する際は互いに事前通告する。



2 度の事件を経て、日本の朝鮮への影響力は減退、清国の朝鮮進出は強化された。

この頃、福沢諭吉 (脱亜論) 発表 ⇒清国との軍事的対決の気運を高めた。

福沢諭吉が当初目指した「アジア諸国の連帯」と親日勢力による朝鮮改革は成功したか。

失敗

その結果、福沢諭吉は何を判断したと考えられるか。

親日派勢力による朝鮮改革を諦め、列強同様に武力によるアジア侵略を目指すこと

Q. 福沢諭吉が 1885 年 3 月 16 日に発表した「脱亜論」は、何を背景として登場したか。

1. 列強によるアジア植民地化の危機感
2. 朝鮮の親日派勢力による改革運動の失敗

<アジア地域の植民地化と日清戦争、日露戦争>

Q. 福沢諭吉が1885年3月16日に発表した「脱亜論」は、何を背景として登場したか。
二点見つけてみよう。

福沢諭吉は朝鮮独立党の指導者金玉均と1882年に会いその後も多くの留学生を受け入れている。



福沢諭吉 1881年 朝鮮の改革を日本が支援し、アジア盟主となって日清連携のもと欧米のアジア侵略に対抗する。**アジア諸国の連携**

なぜ変化？



福沢諭吉 1885年「**脱亜論**」 朝鮮、清の開明を待って連帯を強める余裕はない。日本も欧米列強同様に東アジア分割に加わることが正しい。

「脱亜論」
我日本の国土は
亜細亜の東辺に在
りとも、其国民
の精神は既に亜細
亜の固陋を脱して
西洋の文明に移り
たり。……左れば今
日の謀を為すに、我
国は隣国の開明を
待て共に亜細亜を
興すの猶豫ある可
らず。寧ろ其伍を脱
して西洋の文明国
と進退を共にし、其
の支那朝鮮に接す
るの法も隣国なる
が故にとて特別の
会釈に及ばず、正に
西洋人が之に接す
るの風に従て処分
す可きのみ。悪友を
親しむ者は共に悪
名を免かる可らず。
我れは心に於て亜
細亜東方の悪友を
謝絶するものなり。

「脱亜論」にはどのような内容が書かれているか。(太線部に注目してペアワークする。)

<19世紀後半頃のアジア情勢>

中国	その他アジア地域
1840() (英×清、清敗北、南京条約)	
1856() (英×清、清敗北、)	1858 ムガル帝国滅亡 (印)
1884() (仏×清、清敗北)	1877 インド帝国成立 (英領インド)
	1885 仏が越を保護国化 (清の撤退)
	1887 仏領インドシナ連邦成立
	1890 露がシベリア鉄道敷設
	1895 英領マレー成立
	1899 比が西領→米領

※これ以外にも19世紀前半にはすでに、

- ・蘭がインドネシア支配を拡大
- ・英の海峡植民地 (マラッカ・シンガポールなど) 成立

「脱亜論」が発表された時期は、上の年表ではどの出来事と近いかな？

その頃、福沢諭吉にはどのような危機意識があったと思われるかな？

<朝鮮問題>

日本が朝鮮への進出を始めると、朝鮮国内で親日派と親清派の対立が目立つようになっていった。

1) 朝鮮内部での親日派 VS 親清派 争い

明治政府は 1875 年江華島事件をきっかけに、翌年日朝修好条規を締結し朝鮮を開国させた。

• 1882(明治 15)年 7 月 ()

…親日派政権(閔妃ら)に対し、守旧派兵士と大院君が起こしたクーデタ。清軍鎮圧で失敗。以後、閔妃らは親清派へ変化。

• 1884(明治 17)年 ()

…親日派独立党(金玉均ら)が日本と結び政権側事大党(閔妃ら)の打倒を目指したクーデタ。清の干渉で失敗

⇒ともに清によって鎮圧(親日勢力は後退)。また悪化した日清関係を打開するため、

1885(明治 18)年 4 月、日本と清国は () を締結した。

() の内容 …

- ①日清両国の朝鮮からの撤兵
- ②次回、朝鮮への出兵する際は互いに事前通告する。



2 度の事件を経て、日本の朝鮮への影響力は減退、清国の朝鮮進出は強化された。

この頃、福沢諭吉 () 発表 ⇒清国との軍事的対決の気運を高めた。

福沢諭吉が当初目指した「アジア諸国の連帯」と親日勢力による朝鮮改革は成功したか。

その結果、福沢諭吉は何を判断したと考えられるか。

Q. 福沢諭吉が 1885 年 3 月 16 日に発表した「脱亜論」は、何を背景として登場したか。

1.

2.

<アジア地域の植民地化と日清戦争、日露戦争>

<日清戦争>

1)戦争のはじまり

朝鮮問題以来、日清両国の武力衝突は回避されていたが、1894年（**甲午農民戦争**）が発生し清国が鎮圧に出兵すると、日本もこれを追って出兵した。（←1885年「天津条約」を参照）
⇒鎮圧後も両軍が朝鮮に止まり、交戦状態へ突入 1894年7月（**日清戦争**）開戦

2)戦争の経過・結果

- ・日本軍…軍隊の訓練・規律、新式兵器の装備
 - ・清国軍…（**眠れる獅子**）と呼ばれていたが、黄海海戦で北洋艦隊が壊滅するなど劣勢
- ⇒日本側優勢が続き、1895(明治25)年4月（**下関条約**）で講和

（**下関条約**）の内容 …
（日本>清国の不平等条約）

- | |
|--|
| ① 清国は朝鮮の独立を承認
② 遼東半島および台湾・澎湖諸島を日本に割譲
③ 賠償金2億両(当時 約3億6450万円)を支払う
④ 新たに4港を貿易港とすること(沙市・重慶・蘇州・杭州) |
|--|

しかし ↓ その直後、

遼東半島の割譲は東アジア進出を狙うロシアを刺激し、ロシアはドイツ・フランスと共に遼東半島の清への返還を要求 ⇒（**三国干渉**）日本は返還に応じ、これ以後、（**臥薪嘗胆**）をスローガンに対ロシアを想定した軍備の強化を進めていく。

<日露戦争>

1898(明治31)年以降、ロシアによる清国・朝鮮への勢力拡大が本格化していった。

Q. 以前から中央アジアなどでロシアと対立、警戒していた国をこたえなさい ⇒（**イギリス**）
⇒日本はイギリスと日英同盟を結び、ロシアとの対決に備える姿勢を強化

<p>▼<u>ロシアと日本が敵対した理由</u></p> <p>ロシア：中国東北部の満州を占領していた(軍隊を常に置いていた)。</p> <p>日本：満州は朝鮮の北にあり、日本が狙う朝鮮進出にロシア満州支配は脅威だった。</p> <p>⇒二国は互いの利益調整の話し合いをするがうまくいかず、日本はイギリスと手を組むことを決意。</p> <p style="text-align: right;">1902年（日英同盟協約）締結</p>
--

・1904(明治37)年2月、（**日露戦争**）開戦

戦局 **日本**：アメリカ・イギリスの援助を受けて展開。

⇒1905年1月旅順、3月奉天を攻略、5月日本海海戦で露艦隊を不能にさせるが、消耗戦で苦戦
⇒戦争費用は外国から多額の借金で調達するが、武器などの供給も生産が追い付かず、国内では終戦を求める声があがる。

ロシア：首都ペテルブルクでのデモや国内の革命運動勃発で混乱(=皇帝への民衆の不満が爆発)
⇒**露**でも皇帝が戦争終結を望む(国内の民衆弾圧を優先する)

終戦と講和 米国セオドア＝ローズヴェルト大統領の仲介

⇒1905年9月
（**ポーツマス条約**）成立

- | |
|--|
| 日本が獲得したもの
1. 韓国における指導権 2. 旅順・大連の租借権
3. 長春以南の鉄道および附属地の利権
4. 樺太の南半分の領有権 |
|--|

<日露戦争後の朝鮮と日本の権益>

日本による植民地化の進行

1904年8月第1次日韓協約：日本人の外交・財政顧問の任用

1905年11月第2次日韓協約：日本が韓国の外交権を接收して保護国化

1907年7月第3次日韓協約：韓国の内政権も掌握、韓国軍隊の解散

1908年12月東洋拓殖会社設立

東洋拓殖会社設立の目的…
 一韓国ニ於テ拓殖事業ヲ
 営ミ、同国ノ資源開發、殖
 産進行ニ当ラシメ、我國ヨ
 リ善良勤勉ニシテ經驗ニ
 富メル農民ヲ移植シ、進歩
 セル農法ノ範ヲ示スト共
 ニ、企業者ニ對シテハ低利
 ナル資金ヲ供給シテ、拓殖
 事業ニ貸セシムルコト

1898 ~1900	1907 ~1909	1912 ~1914	年代	1898 ~1900	1907 ~1909	1912 ~1914
202	429	666	計(百万円)	266	468	716
41.2%	39.2%	43.7%	東北アジア	19.2%	23.1%	21.9%
3.4	5.0	6.3	台湾	1.5	5.6	6.2
3.8	7.0	6.0	朝鮮	2.2	3.2	3.2
—	4.2	4.0	関東州	—	2.8	4.1
16.7	17.0	21.6	清国	11.2	11.2	8.1
17.3	5.0	4.8	香港	4.3	0.2	0.1
5.2	6.0	7.3	東南アジア	22.4	21.3	30.0
21.1	21.3	17.7	ヨーロッパ	38.8	37.0	27.1
28.3	30.7	28.3	北アメリカ	17.8	15.4	16.3
4.2	2.8	3.0	その他	1.8	3.2	4.7

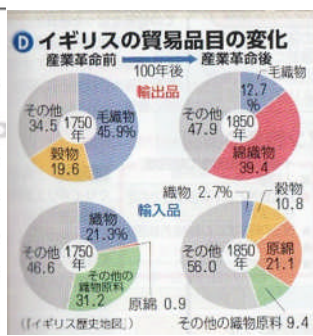
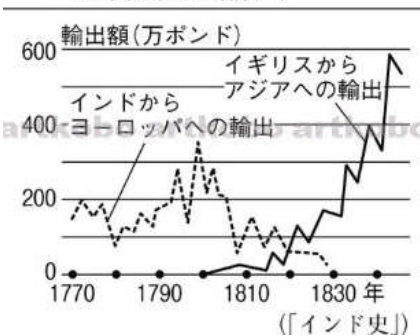
解説：輸出入ともに台湾・朝鮮・関東州の植民地の比重が上昇し、第一次世界大戦直前期には輸移出の16.3%、輸移入の13.5%を占めた。商品別では綿織物の輸移出が増え、米・砂糖・大豆(油粕)の輸移入の比重が高まった。



Q. 帝国主義政策にとって植民地の獲得がなぜ必要だったか2点説明しなさい。

植民地を獲得しその国の富を収奪する帝国主義政策は、世界史上では19世紀後半以降本格化したと考えられている。以下はイギリスとインドの例である。インドでは、紀元前より綿織(キャリコ)生産が盛んであり、17世紀にはヨーロッパでも人気があった。18世紀以降イギリスのインド進出が拡大すると、1877年インドは正式にイギリス植民地の一部となった。この頃、産業革命により機械化されたイギリス綿織物工業にとっての原綿供給地と綿製品輸出先市場となり、インド現地での綿織物生産は崩壊した。またイギリスでは1880年代に国内鉄道網が完成すると、鉄道会社は大きくなった利益をもとに、インドでダージリン・ヒマラヤ鉄道の建設を1879年開始し、鉄道建設に付随する利権も植民地インドから獲得した。

イギリスとインドの綿布の輸出



Q. 帝国主義政策にとって植民地の獲得がなぜ必要だったか2点説明しなさい。

原材料や資源の安価な供給地 製品や投資の輸出先市場

Q. 日本の帝国主義政策は日露戦争以降本格化したと考えられる。日本にとって朝鮮を植民地化するメリットにはどのようなものがあったか。

原料・資源供給地、製品や投資の輸出先市場、日本人移民先、大陸への足がかり など

<アジア地域の植民地化と日清戦争、日露戦争>

<日清戦争>

1)戦争のはじまり

朝鮮問題以来、日清両国の武力衝突は回避されていたが、1894年()が発生し清国が鎮圧に出兵すると、日本もこれを追って出兵した。(←1885年「天津条約」を参照)
⇒鎮圧後も両軍が朝鮮に止まり、交戦状態へ突入 1894年7月()開戦

2)戦争の経過・結果

- ・日本軍…軍隊の訓練・規律、新式兵器の装備
 - ・清国軍…()と呼ばれていたが、黄海海戦で北洋艦隊が壊滅するなど劣勢
- ⇒日本側優勢が続き、1895(明治25)年4月()で講和

()の内容 …
(日本>清国の不平等条約)

- ⑤ 清国は朝鮮の独立を承認
- ⑥ 遼東半島および台湾・澎湖諸島を日本に割譲
- ⑦ 賠償金2億両(当時 約3億6450万円)を支払う
- ⑧ 新たに4港を貿易港とすること(沙市・重慶・蘇州・杭州)

しかし ↓ その直後、

遼東半島の割譲は東アジア進出を狙うロシアを刺激し、ロシアはドイツ・フランスと共に遼東半島の清への返還を要求 ⇒ () 日本は返還に応じ、これ以後、() をスローガンに対ロシアを想定した軍備の強化を進めていく。

<日露戦争>

1898(明治31)年以降、ロシアによる清国・朝鮮への勢力拡大が本格化していった。

Q. 以前から中央アジアなどでロシアと対立、警戒していた国をこたえなさい ⇒ ()
⇒日本はイギリスと日英同盟を結び、ロシアとの対決に備える姿勢を強化

▼ロシアと日本が敵対した理由

ロシア：中国東北部の満州を占領していた(軍隊を常に置いていた)。
日本：満州は朝鮮の北にあり、日本が狙う朝鮮進出にロシア満州支配は脅威だった。
 ⇒二国は互いの利益調整の話し合いをするがうまくいかず、日本はイギリスと手を組むことを決意。
 1902年()締結

・1904(明治37)年2月、()開戦

戦局 **日本**：アメリカ・イギリスの援助を受けて展開。

⇒1905年1月旅順、3月奉天を攻略、5月日本海海戦で露艦隊を不能にさせるが、消耗戦で苦戦
⇒戦争費用は外国から多額の借金で調達するが、武器などの供給も生産が追い付かず、国内では終戦を求める声があがる。

ロシア：首都ペテルブルクでのデモや国内の革命運動勃発で混乱(=皇帝への民衆の不満が爆発)
⇒**露**でも皇帝が戦争終結を望む(国内の民衆弾圧を優先する)

終戦と講和 米国セオドア＝ローズヴェルト大統領の仲介

⇒1905年9月
()成立

- 日本が獲得したもの
1. 韓国における指導権
 2. 旅順・大連の租借権
 3. 長春以南の鉄道および附属地の利権
 4. 樺太の南半分の領有権

<日露戦争後の朝鮮と日本の権益>

日本による植民地化の進行

1904年8月第1次日韓協約：日本人の外交・財政顧問の任用

1905年11月第2次日韓協約：日本が韓国の外交権を接收して保護国化

1907年7月第3次日韓協約：韓国の内政権も掌握、韓国軍隊の解散

1908年12月 設立

東洋殖産会社設立の目的…
 「韓国ニ於テ殖産事業ヲ
 営ミ、同国ノ資源開發、殖
 産進行ニ当ラシメ、我國ヨ
 リ善良勤勉ニシテ經驗ニ
 富メル農民ヲ移植シ、進歩
 セル農法ノ範ヲ示スト共
 ニ、企業者ニ對シテハ低利
 ナル資金ヲ供給シテ、殖産
 事業ニ貸セシムルコト」

1898 ~1900	1907 ~1909	1912 ~1914	年代	1898 ~1900	1907 ~1909	1912 ~1914
202	429	666	計(百万円)	266	468	716
41.2%	39.2%	43.7%	東北アジア	19.2%	23.1%	21.9%
3.4	5.0	6.3	台湾	1.5	5.6	6.2
3.8	7.0	6.0	朝鮮	2.2	3.2	3.2
—	4.2	4.0	関東州	—	2.8	4.1
16.7	17.0	21.6	清国	11.2	11.2	8.1
17.3	5.0	4.8	香港	4.3	0.2	0.1
5.2	6.0	7.3	東南アジア	22.4	21.3	30.0
21.1	21.3	17.7	ヨーロッパ	38.8	37.0	27.1
28.3	30.7	28.3	北アメリカ	17.8	15.4	16.3
4.2	2.8	3.0	その他	1.8	3.2	4.7

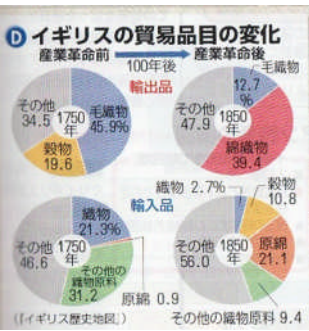
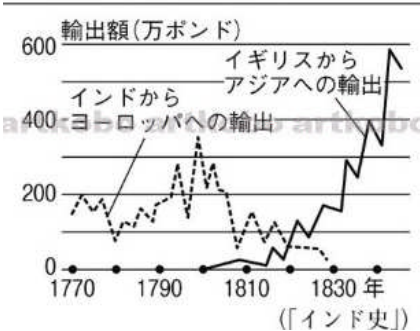
解説：輸出入ともに台湾・朝鮮・関東州の植民地の比重が上昇し、第一次世界大戦直前期には輸移出の16.3%、輸移入の13.5%を占めた。商品別では綿織物の輸移出が増え、米・砂糖・大豆(油粕)の輸移入の比重が高まった。



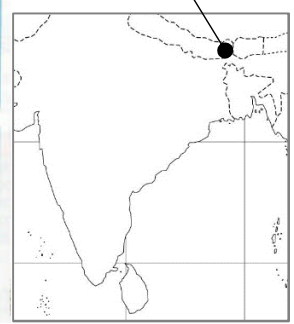
Q. 帝国主義政策にとって植民地の獲得がなぜ必要だったか2点説明しなさい。

植民地を獲得しその国の富を収奪する帝国主義政策は、世界史上では19世紀後半以降本格化したと考えられている。以下はイギリスとインドの例である。インドでは、紀元前より綿織(キャリコ)生産が盛んであり、17世紀にはヨーロッパでも人気があった。18世紀以降イギリスのインド進出が拡大すると、1877年インドは正式にイギリス植民地の一部となった。この頃、産業革命により機械化されたイギリス綿織物工業にとっての原綿供給地と綿製品輸出先市場となり、インド現地での綿織物生産は崩壊した。またイギリスでは1880年代に国内鉄道網が完成すると、鉄道会社は大きくなった利益をもとに、インドでダージリン・ヒマラヤ鉄道の建設を1879年開始し、鉄道建設に付随する利権も植民地インドから獲得した。

イギリスとインドの綿布の輸出



ヒマラヤ・ダージリン鉄道



Q. 帝国主義政策にとって植民地の獲得がなぜ必要だったか2点説明しなさい。

Q. 日本の帝国主義政策は日露戦争以降本格化したと考えられる。日本にとって朝鮮を植民地化するメリットにはどのようなものがあったか。